



■ 3 . ホトトギスとウグイス - 寄生的繁殖者と犠牲者 -



鳴くホトトギス

ホトトギスは[ヒヨドリ](#)ほどの大きさで、胸腹の横縞や翼の形から小型のタカを連想させる。その鳴き声から古典でも有名な鳥である。六甲や摩耶で初夏に多く聞かれる。夜にも鳴く。

自分で抱卵も育雛もすることができず、[ウグイス](#)に寄生的に[托卵](#)繁殖する変わった習性から鳥類生態学者の研究対象として古くからよく取り上げられた。

[ウグイス](#)のさえずりは、知らない人がないほど広く親しまれている。スズメほ

どの大きさで、褐色がかったオリーブ色の目立たない色彩に加えて、人の目のとどきにくい藪の中で生活しているため、姿は声ほどには知られていない。梅に[ウグイス](#)は、古くから絵になり、歌にも詠まれたが、この両者に特別なつながりがあるわけではない。梅の花の咲く頃から鳴きはじめるので、ときには庭先の梅でさえずるウグイスを見る機会があったからであろう。むしろ、竹か笹に関係が深いといえよう。